八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: カルチベータ、中耕除草機	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:
- ☐ 人力用具 ☐ 手押式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用
- ☒ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類
- ☐ 原動機具 ☒ 牽引式 ☒ 管理用 ☐ 機素
- ☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☐ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y141

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

一頭曳中耕除草機。中耕除草は、畑畦作物の畦間や株間の固結した表土を膨軟(中耕)にし、雑草を除き(除草)し、あるいは株際に培土して無効分けつを抑え、倒伏を防ぎ、地下部の肥大を促すなどの目的で行われる。この作業は古代から重要な作業のため、カードＹ032に示す草削りホーを始め、万能・向突など種々の人力作業機があった。それが1872-4年に開拓使が輸入した手押し型と畜力用のカルチベータが紹介されて能率的な作業が可能になった。1878年ごろ刊行の七重官園報告第1号は、洋式農具の最古の報告書であるが、コヲンカルチュヘータと題して効用を紹介している。

利用経過収集記録意義等

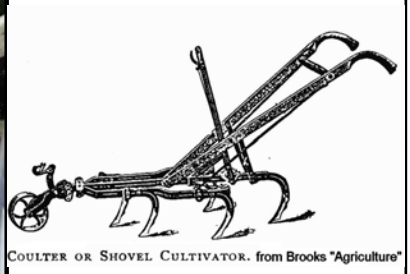
不明、八雲町では、七重官園の指導で始まった鷹の巣耕舎でも使われているが、当時の機種は残されておらず、標本は第2次大戦直前程度の新しい機種と思われる。

仕様書_解説等

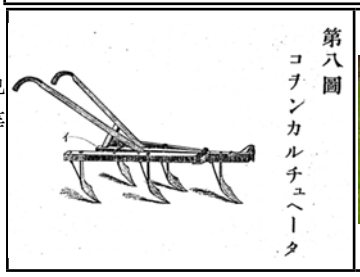
仕様　欠品があって爪数が不明確

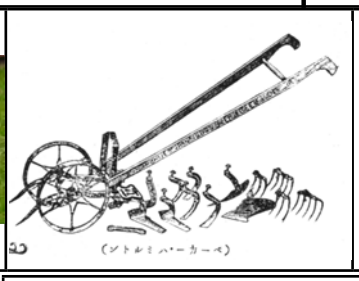
関連図1：1878年ごろ七重官園報告書に記載されるカルチベータ
2：1920年代の佐々木式カルチベータ標本と構造が似ている
3：手押式カルチベータ、明治期輸入品
4：乗用カルチベータ、明治期輸入品

右に全体図



外観特色関連図等





資料の所在: 展示場付属倉庫

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文: 八雲では相当数のカルチベータが使われたと思われるが、標本以外に収集された機種は少ないようである。

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編